

# 令和4年度全国学力・学習状況調査 本校の結果概要について

千歳市立高台小学校

保護者の皆様には、日頃から本校の教育活動に多大なるご理解とご協力をいただいておりますことに、心より感謝申し上げます。

さて、本年4月に実施いたしました全国学力・学習状況調査の本校の結果がまとまりましたので、お知らせいたします。本校では、この調査結果を踏まえ、児童の学力向上に向けた行動プランを作成し、学校の教育計画や日常の授業の改善に取り組んでまいります。

## 1 児童質問紙の結果より

### 【生活習慣】

朝食を毎日とどちらかといえば食べているを含めるとほぼ全国と同等の結果となっています。就寝・起床については、ほぼ決まった時刻に行っており全国平均を上回っています。

### 【ゲーム・スマホ等約束事】

所持率は全国平均と比較してかなり低いが、家庭の約束事は概ね守られています。一方で、所持している児童が、平日にゲーム等に費やす時間は、4時間以上という回答が33%と多く、全国平均の約2倍となっています。SNSや動画視聴時間も4時間以上と回答した児童の割合が全国平均を上回っています。

### 【自分自身や周囲との関係】

自分によいところがあるが87%、教師からのよさの承認が100%、将来の夢や目標があるが87%、やり通す意思が87%、挑戦心が78%といずれも全国平均を上回っています。また、他者への貢献や相手を理解することも全国平均を上回る回答となっています。学校に行くのが楽しい児童は84%、友だちと協力することが楽しいは96%でともに全国平均と同様です。

### 【家庭での学習意欲】

学校からの課題でわからないことがあった時は、自分で調べるが69%と最も多く、全国と同様です。一方で、そのままにするが15%と全国平均を上回っています。全体として計画的に家庭学習を行える児童が全国平均を下回っています。学習時間は、千歳市が推奨している70分（学年×10分+10分=70分）程度である1時間以上勉強していると回答した児童が全体の48%であり、半数以上の児童は家庭での学習時間が不足しています。

### 【思考力・表現力の向上をめざした授業】

授業での課題解決をとおして、自分の考えをうまく伝える工夫をした発表をする活動、既習事項を生かし考えをまとめる活動、自ら考えて作品や作文などの創作活動、友達と話し合いを通じて考えを深める活動で自分の考えを深めたり幅を広げたりすることができたと回答する児童はそれぞれにおいて全国平均を大きく上回っています。

### 【国語科の学習について】

国語科の学習が好きだと回答する児童は54%、教科の重要性は93%が大切だと感じ、同じ割合で将来に役立つ教科としています。また、学習内容を89%がよく理解しています。

### 【算数科の学習について】

算数科の学習が好きだと回答する児童は半数以上いますが、全国平均を下回り、国語科に比べ苦手意識を感じている児童が多いです。教科の重要性は97%が大切だと感じ、同じ割合で将来に役立つ教科としています。また、学習内容は87%理解しています。さらに、「ねばり強く問題を解くこと」、「別解を考えること」、「公式やきまりについて理解する意識」は全国平均より高い傾向にあります。一方で、既習事項の活用することが63%と全国平均を下回る結果となっています。

### 【理科の学習について】

理科の学習が好きだと回答する児童は69%で全国平均を下回っています。一方で、教科の重要性については、90%が大切だと感じ、81%が将来に役立つと考えています。また、理系の職業に就きたいと考える児童の割合が33%と全国平均より高いです。さらに、「学習内容が理解できる」、「学習内容の生活への活用をする」、「授業での予想をもとに観察・実験の計画を立てる」、「実験観察の結果を考察する」、「検証する」という児童の割合は、いずれも全国平均を上回っています。

## 今後に向けて

○子どもの健やかな成長を第一に考えると、「早寝・早起き・朝ごはん」といった基本的な生活習慣についてはご家庭の協力が不可欠です。日頃の教育活動の中で大切なこととして子どもたちに伝えていきます。ご家庭のご協力をお願いいたします。

○帰宅後の時間はメディアの視聴が長く、学習時間や睡眠時間にそのしわ寄せがいつているようです。子どもたちの生活リズムの乱れや健康面への影響が出ないように、各家庭と連携していきたいと考えています。

○全体として子ども同士、子どもと教師の望ましい人間関係が築かれています。その状態を維持するために一人一人を認めるように努め、目的意識をもって活動を最後までやり遂げるための援助、時間を保証しつつ、物事に取り組みせる機会をつくっていきます。

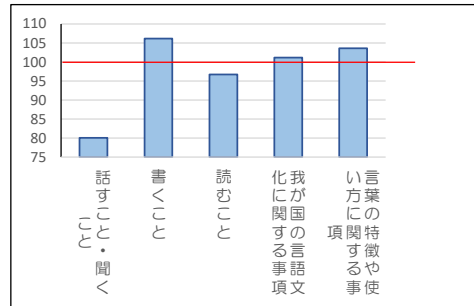
○家庭学習に取り組む習慣は、しっかり身につけさせたいと考えています。休日は平日に比べて家庭学習を行う時間が増える傾向ですが、中学校進学後の学習活動で求められる意欲を備えさせるために、計画的に宿題を課したり、放課後学習を通してわかる楽しさを味わわせたりすることで、自ら学習に向かう意欲の醸成を目指します。

○課題を設定し、思考する場面・考えを交流する場面・考えをまとめ発表する場面を授業の流れに位置づけ、「主体的・対話的で深い学び」となる授業を進めていきます。

全国の平均正答率と比較してほぼ同様の結果でした。

全国平均を100とした場合の本校の正答率

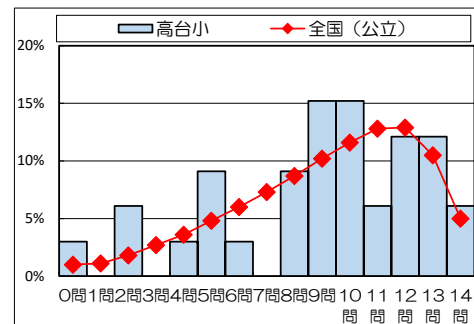
内 容	全国平均との比較
話すこと・聞くこと	下回っている
書くこと	上回っている
読むこと	やや下回っている
言葉の使い方に関する事項	ほぼ同様
我が国の言語文化に関する事項	上回っている



### 問題形式別の平均正答率の結果

選択式	ほぼ同様
短答式	上回っている
記述式	下回っている

正答した設問数の人数



国語全体として

話し言葉と書き言葉の違いはよく理解できています。また、必要な情報を伝えたり、質問することで話し合いの主旨を捉えることもできています。一方で互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合ったり、自分の考えをまとめたりする力が不足していると考えられます。

漢字の読み書きの力については6～7割の児童が身につけています。

文章内容を図式化したり、全体像を捉えたり、自他の文章を比較したりする問題は5割の正答率でした。また、その問題は無回答の人数が15～21%と他の設問に比べて多く見られました。

全体として、記述式の問題を解く力、思考判断表現の書く力の向上が課題であると考えます。

正答率が低かった問題 【全国47.7% 本校24.2%（無回答率0%）】

[illegible]

この問題について

これは、互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題です。

話し合いの様子から言葉や文を取り上げて書いてはいるものの、選んだアイデアの問題点に対する解決方法が書けていませんでした。話し合いの目的や方向性を検討したり、互いの意見を整理したり、様々な視点を検討して自分の考えをまとめたりすることができなかったことが理由と考えられます。

この問題の無回答率は0%であり、記述式問題でしたが根気強くを考え、回答したことがうかがえます。

### 3 算数科の結果

全国の平均正答率と比較してやや下回る結果でした。

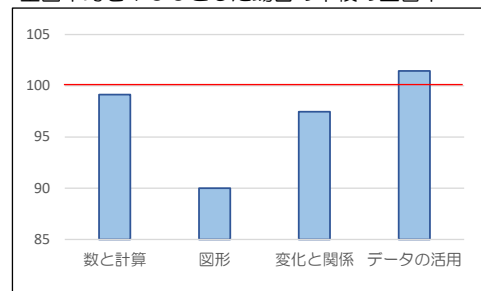
学習指導要領の領域別の平均正答率の結果

領 域	全国平均との比較
数と計算	ほぼ同様
図形	下回っている
変化と関係	ほぼ同様
データの活用	ほぼ同様

問題形式別の平均正答率の結果

選択式	下回っている
短答式	やや下回っている
記述式	やや上回っている

全国平均を100とした場合の本校の正答率



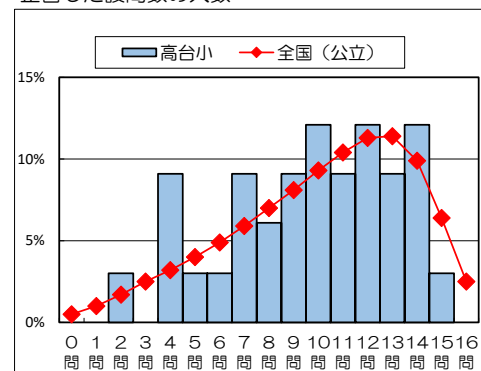
算数全体として

基本的な計算問題の正答率は8割から9割と高い結果となりました。さらに割合や分類された情報を読みとって処理する問題は6割以上、図形の性質を理解する問題は5割以上が正答しています。

一方で、示された場面において目的に合った数の処理の問題では約4割、数量が変わっても割合は変わらない問題では約2割の正答率となり、条件を変えた問題の正答率が低いという結果でした。

全体として、概ね正答率が高いですが、変化と関係、選択式の問題で正答を判断する力の向上が課題であると考えます。

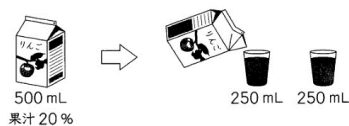
正答した設問数の人数



正答率が低かった問題

【全国21.4% 本校15.2%（無回答率0%）】

- 2 (3) りんごの果汁が20%ふくまれている飲み物が500 mLあります。  
この飲み物を2人で等しく分けると、1人分は250 mLになります。



250 mLの飲み物にふくまれている果汁の割合について、次のようにまとめます。

250 mLは、500 mLの $\frac{1}{2}$ の量です。

このとき、 ㊦

上の㊦にあてはまる文を、下の1から3までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合も $\frac{1}{2}$ になります。
- 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合は2倍になります。
- 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になっても、果汁の割合は変わりません。

この問題について

これは、数量が変わっても割合は変わらないことを理解しているかどうかをみる問題で、正答は3です。

1と回答する児童が多く、果汁が20%含まれている飲み物を二人で等しく分けた時、量が2分の1になると、果汁の割合も2分の1になると誤ってとらえてしまったことが理由と考えられます。

日常の具体的な場面で、果汁が含まれている飲み物を二つに等しく分けても、飲み物の濃さは変わらないということと関連づけ、飲み物の量に対する果汁の量は変わらないと的確に判断する力が求められます。

この問題の無回答率は0%でした。

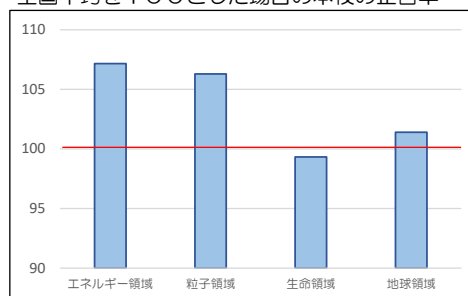
## 4 理科

全国の平均正答率と比較してやや上回る結果でした。

学習指導要領の領域別の平均正答率の結果

領 域	全国平均との比較
エネルギーを柱とする領域	上回っている
粒子を柱とする領域	上回っている
生命を柱とする領域	ほぼ同様
地球を柱とする領域	ほぼ同様

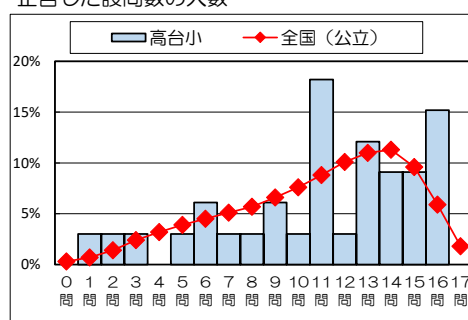
全国平均を100とした場合の本校の正答率



問題形式別の平均正答率の結果

選択式	ほぼ同様
短答式	上回っている
記述式	上回っている

正答した設問数の人数



### 理科全体として

どの領域も正答率が高い結果となりました。特に生命を柱とする領域の観察をもとにした問題は5問出題されましたが、それらの正答率はすべて6割以上でした。

一方で、エネルギーを柱とする領域の「光の反射で日光が直進すること」を理解している問題では、全国平均とほぼ同様ではありましたが、27.3%と正答率が低い結果となりました。

全体として、理科に関する学力は一定の高さを維持していくために、実験結果をもとにした分析を通して、自分の考えをもち、表現できる力を向上させることが課題であると考えます。

### 正答率が低かった問題【全国27.8% 本校27.3%（無回答率0%）】

**3** たかしさんたちは、晴れた日に科学クラブで、同じ大きさの鏡を使い、日光をはね返して、的<sup>てき</sup>あてゲームをしました。

(1) 3人が上の図の位置で鏡の向きを変え、それぞれが日光をはね返して、3つの段ボールの板にあてたときに、かべの左にある的に、三角形の光をあてることができるのはだれですか。下の **1** から **4** までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

**1** たかしさん  
**2** はなこさん  
**3** かつやさん  
**4** 全員

上の図のように、3人とかべの間に、それぞれ、円形、三角形、四角形に切りぬいた、鏡と同じ大きさの段ボールの板を置きました。

### この問題について

これは、日光は直進することを理解しているかどうかをみる問題で正答は3です。2と回答する児童が多く、日光が直進することについての理解が十分でなかったり、三角形に切り抜いた段ボールの板によって光が曲がるとらえたりしていると考えられます。または、日光は直進するという知識を問題の状況に当てはめて考えることができていないとも考えられます。知識をより深く理解することができるようにするには、習得した知識を実際の自然の事物・現象と結びつけて説明できる力が求められます。この問題の無回答率は0%でした。